

# Human documentary film festival abeno

## ヒューマンドキュメンタリー映画祭 《阿倍野》2015

今年は新作のみならず、戦後のドキュメンタリー映画を代表する作品も再上映し、日本の現代史を振り返るプログラムを組みました。めったに観られない作品揃いです。

### 上映作品監督 ドキュメント・トーク出演者 プロフィール



藤井光 (監督)



代島治彦 (監督)



今井友樹 (監督)



原一男 (監督)



柴田昌平 (監督)



砂田有紀 (監督)



伊勢真一 (監督)



綿井健陽 (監督)



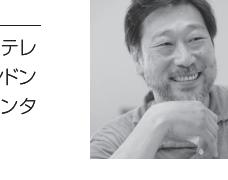
高橋俊永 (監督)



吳徳洙 (監督)



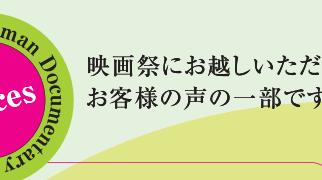
樋口真嗣 (監督)



金聖雄 (監督)



鈴木洋一 (監督)



映画祭にお越しいただいた  
お客様の声の一部です。

自分が生活していた中で知らない事実がたくさんあったんだなあ…と少し恥ずかしい気持ちになりました。  
テレビだけの情報で全てを知っている気になってはいけないと。事を知ることは、今後の人生で立ち止まり考えるときに何かの役に立つ感じました。

とても大きなものを感じることができました。ぜひこの映画を私の友人にも家族にも紹介したいです。

それぞれ映画のテーマは違うけれど、「人と人」のために大切なことを与えてくれる映画だと思います。

ドキュメンタリー映画は苦手でしたが、この映画祭のおかげで好きになりました。

母の介護をしたときのことを思い出したり、自分ととの関係について、ケンカができることもありがたいことなんかなあって思いました。また愛情は消えないんだなあと安心しました。人の関わりを大切にしています。

人間のある一部分を取り切ったものであっても、そこに現れているのは実だと思います。

毎年、楽しく感動しながら観ています。もっと鑑賞できる機会がほしいですね。

今回もいろんなことを考え、感じる事ができました。  
いつも映画を観て学びはじめることが多いです。

人が生きる姿は本当に美しいと思いました。

「戦後70年」と真正面から向き合い、  
人間にスポットを当て、時代を見つめる……。



### ASAHIZA

人はどこへ行く  
監督 藤井光

### 三里塚に生きる

監督 大津幸四郎  
監督 代島治彦

雨ニモ負ケズ、國ニモ負ケズ、土ト生キル。国家権力の一方的な空港建設に反対し、闘い、傷つき、苦悶した三里塚農民の半世紀に及ぶ抵抗の物語。日本ドキュメンタリー界を代表するカメラマン大津幸四郎の遺作となった。(140分)

(140分)

香港国際映画祭2015正式招待作品

### ひめゆり

監督 柴田昌平

地上戦が展開された沖縄で15~19歳の女学生が看護要員として動員された。砲弾の飛び交う戦場、暗い壕の中での負傷兵の看護。多くの学友を失った「ひめゆり学徒隊」の生存者22名による、戦場の体験と亡き友への想いを綴った初の長編ドキュメンタリー。「認知症」という病を見つめる以上に、「人間」を見つめること。何気ない一言やワンシーンに耳を澄ませてください。(85分)

(85分)

### ゆめのほとり

認知症グループホーム 福寿荘  
監督 伊勢真一

認知症の人は「何もわからない人ではありません。北海道・札幌市にある認知症グループホームの日常をスケッチした、穏やかで、静かで、優しいヒューマンドキュメンタリー。「認知症」という病を見つめる以上に、「人間」を見つめること。何気ない一言やワンシーンに耳を澄ませてください。(85分)

(85分)

映画祭にお越しいただいた  
お客様の声の一部です。

### ゆきゆきて、神軍

監督 原一男

天皇の戦争責任に迫る過激なアナーキストを追った衝撃のドキュメンタリー。奥崎謙三は、たったひとりの「神軍平等兵」として、「神軍」の旗たなびく車に乗り、今日も日本列島を疾駆する。生き残った元兵士たちから、驚くべき眞実と戦争の実態が明かされる。(122分)

(122分)

日本映画監督協会新人賞  
ベルリン国際映画祭カリガリ賞  
パリシネマ・デュ・レール映画祭グランプリ  
第42回毎日映画コンクール日本映画優秀賞など

### 鳥の道を越えて

監督 今井友樹

あるとき祖父から、かつて故郷の空が渡り鳥の大群で埋め尽くされたという話を聞かされ、監督は「鳥の道」を探し求めて旅にでる。渡り鳥の生態や、かつての鳥獣の歴史を辿りながら、旅の過程で生まれる一つひとつの疑問を丹念に追っていく。(93分)

(93分)

文化庁映画賞・文化記録映画優秀賞  
キネマ旬報ベスト・テン文化映画部門第1位など

### みんなの学校

監督 真鍋俊永

大空小学校がめざすのは「不登校ゼロ」。ここでは発達障害がある子も、そうでない子も同じ教室で学ぶ。そして誰もが通い続けられる学校づくりを、児童・教職員・保護者・地域の人々が一緒にやって行ってきた。学びとは?あるべき公教育とは?映画で「学校参観」してみませんか?(106分)

### 戦後70年

監督 吳徳洙

今から百年ほど前、朝鮮は日本によって植民地支配された。結果、沢山の朝鮮人が海を渡った。1945年8月15日の敗戦により朝鮮人は解放された。それらの人々は現在も「在日」としてこの国に住みつづけている。戦後の「在日の軌跡」を通して、日本の戦後史が描かれる。(135分)

(135分)

キネマ旬報ベスト・テン文化映画部門第2位  
日本映画ペシカニアトリアル部門1位など

映画祭にお越しいただいた  
お客様の声の一部です。

### 子供たちの涙

監督 砂田有紀

第二次世界大戦中のインドネシアで、軍人・軍属の日本人男性とインドネシア系オランダ人女性の間に生まれた混血の子たち。自分は何者なのか、望まれて生まれてきたのか…。日本人すらも知らない、終わらない戦後を追った渾身のドキュメンタリー。(49分)

(49分)

IMA国際映画賞2014  
短編ドキュメンタリー部門金賞

### 三里塚に生きる

監督 大津幸四郎  
監督 代島治彦

雨ニモ負ケズ、國ニモ負ケズ、土ト生キル。国家権力の一方的な空港建設に反対し、闘い、傷つき、苦悶した三里塚農民の半世紀に及ぶ抵抗の物語。日本ドキュメンタリー界を代表するカメラマン大津幸四郎の遺作となった。(140分)

(140分)

### ひめゆり

監督 柴田昌平

地上戦が展開された沖縄で15~19歳の女学生が看護要員として動員された。砲弾の飛び交う戦場、暗い壕の中での負傷兵の看護。多くの学友を失った「ひめゆり学徒隊」の生存者22名による、戦場の体験と亡き友への想いを綴った初の長編ドキュメンタリー。「認知症」という病を見つめる以上に、「人間」を見つめること。何気ない一言やワンシーンに耳を澄ませてください。(85分)

(85分)

### ゆめのほとり

認知症グループホーム 福寿荘  
監督 伊勢真一

認知症の人は「何もわからない人ではありません。北海道・札幌市にある認知症グループホームの日常をスケッチした、穏やかで、静かで、優しいヒューマンドキュメンタリー。「認知症」という病を見つめる以上に、「人間」を見つめること。何気ない一言やワンシーンに耳を澄ませてください。(85分)

映画祭にお越しいただいた  
お客様の声の一部です。